

令和7年度（第5回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年12月18日（木） 14時00分～16時00分
 - 2 開催場所 加古川市役所南館301会議室
 - 3 出席委員 日置委員、坂田委員、長谷川委員、後藤委員、岸本委員、菅原委員、久保田委員、藤野委員、徳田委員、山尾委員、高橋委員（11名）
 - 4 欠席委員 大山委員、小倉委員
 - 5 出席職員 小南教育長、松尾教育指導部長、藤原教育指導部次長、尾崎教育指導部参事、井上教育指導部参事、今津教育指導部参事、真鍋教育指導部参事、岡本社会教育課長、久保田加古川西公民館長、福島氷丘公民館長、石川加古川公民館長、後藤両荘公民館長、中田平岡公民館長、大西陵南公民館長、中倉中央図書館長、又賀中央図書館係長（西森担当副課長、土屋地域教育係長、本田主査）
 - 6 傍聴者 0名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

（1）社会教育と学校教育の連携について

（社会教育課、加古川公民館、両荘公民館、平岡公民館、陵南公民館より説明）

委員長

具体的な取り組みについて話が聞けて、中学生のことを考えながら関わっていただいていることがわかった。

委員

公民館で子どもに対して多くの講座を実施いただいている。部活動地域展開を見据えて連携しながらされていることは有難い。中学生のみを講座の受講対象にすることで受講者数が伸び悩むというご報告を踏まえると、現在の中学生は部活動等により時間がないが、発表であったようなテストの最終日など、実施できる日が限られてくると思う。小学校高学年の子どもを受講者のターゲットとすることで、実際に参加した子どもが、中学生になっても参加しようと思ってもらえるとより効果があるのではと感じる。小学校高学年になると児童クラブに入れない保護者も多く、過ごし方を模索している子どもも多いので、その子ども達が公民館の講座を受講することで楽しみに繋がり、スムーズなかこ☆くら活動の導入にもなると思う。小学生の参加にも目を向けていただけると嬉しい。

平岡公民館長

現在実施予定の講座 make make make では中学生と小学校5、6年生を対象としているが、現在申込のある8名全員が小学生であることから、公民館で楽しい活動ができることを小学生にも感じていただき、今後に繋げていきたい。

陵南公民館長

委員がおっしゃったことを実感しており、部活動が実際になくなる小学校5・6年生あ

たりにターゲットを絞る講座を来年検討したいと考えている。また、今年当公民館のダンス教室で講師をしていただいている方が、小学校のチャレンジクラブでもボランティアとして子ども達に教えていただいております、その講師ともタイアップすることも検討していきたい。

委員長

本日は4館の発表だが、他の館へもノウハウを伝えていただきながら、小学校高学年の子どもをターゲットにした講座を展開いただきたい。

委員

自分自身が現場にいたため、状況を良く理解しているが、公民館は非常に苦勞しながら講座等を実施されていることと思う。講師が3名いらっしゃり参加費が500円と低廉な価格だが、講師はどのように探されたのか教えていただきたい。

平岡公民館長

講師は元々当館で講座を実施いただいている講師の中から人気のある講師を選定し、実施の調整を行った。大人向けの講座であれば、申込開始から10分程度で募集定員が埋まる人気のある講師である。

委員

どの公民館も地域ボランティアの方のサポートに頼る部分が多いと思うが、無償ボランティアを増やすことは現状難しいと感じている。ある程度組織化されている福祉ボランティアと比較して、社会教育関係のボランティアは育成や活動を継続するための支援などが難しく感じており、積極的にサポートしていく体制を築けたら良いと以前から思っているところである。例えば、社会教育ボランティア活動をされている方は、公民館使用料を免除したり、部屋を優先的に確保すること等が考えられるのではないかと。また謝礼の面では有償ボランティアも考えられるが、労働の対価としての設定が難しいという課題がある中、ボランティアの方の情報が一元化できる仕組みがあれば良いのでは感じる。

委員長

本日資料で配布しているかこ☆くらについて簡単に説明をいただきたい。

教育指導部 部活動地域展開推進担当参事

かこ☆くらについて、資料を基に説明させていただく。市は令和7年3月に基本方針を策定し、今年度に入り本格的な取り組みが開始された状況であるが、令和9年8月に全ての部活動が終了し、地域クラブ活動へと変わっていく。一部の種目（ソフトボール、ハンドボール、サッカー）は先行して令和8年8月から地域クラブ活動を開始する。3種目については、今年9月に1回目の募集をしており、サッカーが7件、ハンドボールとソフトボールがそれぞれ2件のクラブから申請を受けている状況である。新しい地域クラブ活動は従来の学校単位の活動ではなく、市内どこからでも参加が可能で、活動の頻度も自由となる。指導については学校の教員のうち希望者や地域の活動団体の方々等をお願いしたく、訪問活動を行っているところであり、今後はかこ☆くらの運営事務局を立ち上げ、クラブの認定等を行っていく予定である。皆様のお力をいただきながら、進めていきたいので、よろしく願いしたい。

委員長

さきほどの委員の意見も検討しながら進めていただきたい。さきほどの公民館の取り組

み内容が、今後地域で実施する活動であると認識している。

委員

公民館の素晴らしい取り組みを聞いて感じるのは、文科系のクラブは市内の公民館と連携して実施することが一番良いと感じている。かこ☆くらの取組は周知することが非常に大事だと思うが、上手く周知されていない実態があると感じる。同じ教育委員会内の部署同士の連携は出来ていても、他の部局との連携が難しい。スポーツクラブとしてスポーツ系のクラブに関わっていくにしても、教員との認識のずれも感じており、組織の間に入って調整する役割が大事なのではないかと不安に思っている。実際の事例では部活動に入る生徒が減っており、その理由を聞くと、既に他市町のクラブチームに入っているとのことである。こうした現状を考える度に早期にクラブを立ち上げる必要性を感じ、保護者も心配している。

教育指導部 部活動地域展開推進担当参事

方針で示させていただいたとおり、すべての種目を一度に地域クラブ化することで混乱が生じないように、地域クラブ化しやすそうな種目を先行で地域クラブ化することで、好事例を示していきたいと考えている。周知が足りていないご指摘については、引き続き積極的な広報活動等を行うことで、ご協力を得ていきたい。スポーツクラブの役割は大きいと期待しており、情報共有を図っていきたいと考えているが、学校に対しての周知が現状足りない点は、学校長を中心に理解を得られるよう周知していきたいと考えている。

委員

公民館の評議員として参加した会議の場でかこ☆くらの話になったことがあり、保護者の不安の声が大きかったことから、さらに安心できるような説明等があれば良いと感じた。その中で公民館の好事例は今後検討する上で良いアイデアであり、参考にしていきたい。

委員

平岡公民館の取り組みの中で、市内すべての小中学生が対象の事業ということであれば、結果が分かり次第、参加者の内訳を聞けたら有難い。

(2) 読書活動の推進について

(中央図書館、社会教育課より説明)

委員

中央図書館の取り組みで「相続制度」についての講座があった。成年後見センターの担当をしている関係で、10月から終活相談窓口を市の委託事業として実施しているが、市の高齢者支援課と実施に向けて協議等の連携があるか等教えていただきたい。

中央図書館長

マネー講座は指定管理者からの紹介案件であり、市の担当部署との連携はしていなかった。防災出前講座は市の防災対策課からの働きかけがあり開催したものと認識している。

委員長

例えば講座を実施する際に、担当課以外に他の関係機関と連携をとると、さらに専門的な内容にできるかもしれないというアイデアだが、他にご意見等いかがか。

委員

各講演会の参加人数と参加者募集方法として工夫した点を教えていただきたい。

中央図書館係長

中央図書館の①読書講演会は 60 名と満員、②加古川ゆかりのおはなし会は 20 名弱、③読書講座は現在募集期間中である。加古川図書館の①マネー講座は先着 20 名の募集が埋まり、②防災出前講座は 10 組の定員が凡そ埋まった。広報媒体については広報紙に加え、読書講演会と加古川ゆかりのおはなし会は市政 75 周年事業として実施したことから、新聞記事に取り上げていただいた。その他 HP、Facebook やチラシ等を用いて周知を行った。

委員長

議事資料 20 ページの軽トラは所持しているものか。

中央図書館係長

図書館流通センターが所持している軽トラを持ってきている。珍しいこともあり、集客に一定の効果を発揮したと認識している。

委員長

他のイベントでも活用できるのであればより良いと思うので、検討してほしい。

委員

図書館や公民館についても、自分が勤めている学校の生徒は距離が遠く、利用したくともできない状況であり、逆に取り組み事例のようにトラック等で移動して来てくれると非常に有難い。

委員

議事資料 12 ページにある児童書読み放題コンテンツについて、小学生の読書機会は増えているが、中学生になると忙しくなり読書の機会が減っている気がするので、手軽に読書ができる機会提供には期待ができる。所属としての現在の評価と今後の見通しをお聞きしたい。

中央図書館館長

こどもが読書を始めるきっかけとするためには良いツールと考えている。来年度も引き続きコンテンツを充実させたいが、曜日ごとの利用傾向等も踏まえた利用増への更なる周知も図っていききたい。

委員

読書活動については、実績を伸ばすのは大変なことだが、学校とうまく連携しながら工夫していただきたい。

公民館について、立地条件によってはこどもにとって行くハードルが高いことは事実だが、本日の取組報告には工夫した結果が表れており、こどもと団体双方にとってもプラスになるよう、さらに進めていただきたい。

委員

陵南公民館の学校連携事業としてのダンス教室は非常に良い取り組みと思う。かこ☆くらではないが、高校生を巻き込んだ公民館事業の一環として、例えば商業施設での発表会も活用していただくことで、こども達にとってもより成長が見込めると思う。

かこ☆くらについては、公民館などで実施する際は、施設側の過度な負担とならないように実施していただきたい。

委員

図書館についての加古川駅南広場における社会実験の報告があったが、京都に行った際、京都ブックパークという催しに偶然出会い、そこでは多数の出版社が集まった一大イベントが実施されていた。そうした取り組みを参考に何か事業が実施できれば、より盛り上がるのではないかと。

委員

4つの公民館の取り組みは試行的な実施かと思うが、他館でも同じように実施されるのか。

社会教育課 地域教育係長

特に文化・芸術活動の場所として、中学校区ごとに設置されている公民館の役割は大きいと考えている中で、実際にどういった取り組みができるかという状況下において、現在試行的に実施しているところである。実際にかこ☆くらが始まると、地域クラブという形で自発的に立ち上がっていく中、例えば地域クラブが立ち上がりにくいエリアにこそ公民館が果たす役割は大きくなり、実際のニーズやクラブ数の調整は行いながら、地域の偏差を解消していく役割も公民館は担っていると現状考えている。

委員

加古川市民団体連絡協議会に参加している。80ほどの団体が登録しており、文化的活動を中心に行っているところであることから、そちらへの周知もさらに図っていただきたい。

委員長

学校によっては部活動が減っている中、かこ☆くらはこどもの選択肢が増えるという状況に変わっていくため、たくさんの受け皿が必要だと思う。良い形に進んでいくよう、各種団体に協力いただけたら良いと思う。

(報告事項)

(1) 兵庫県社会教育研究大会(11/26)の参加報告について

- 閉会 16時00分
副委員長あいさつ

以上